公開日 2012 年 11 月 15 日

本庄高等学院の将来構想

地域の特色を活かした「森に想い土に親しむ」教育を一層発展させた「大久保山学」をテーマに、教科横断型の教育・研究活動を通して、社会の各分野で活躍できるリーダーを育成する

１．2032 年（創立 150 周年時）のイメージ

広大なキャンパスと恵まれた自然環境の中で、基礎・基本をしっかり鍛えられ、知識と経験を判断・行動に結びつけ、ものごとを横断的・俯瞰的にとらえることができるようになった感性豊かな生徒たちは、早稲田大学に進学してその豊かな才能を一層伸ばし、地域社会から国際社会にいたる各分野でリーダーとして活躍している。

本庄高等学院は、教育のモデルケースとして広く知られるようになっているし、また教職員・生徒の研究成果はデータベース化され、教育・研究の資料として提供されている。活動内容や研究成果については、本庄キャンパス内の施設を活用していつでも閲覧されるようになっている。

社会の各界で活躍している卒業生たちは、外部講師としても本庄高等学院の教育の一端を担っている。１期生は古希近くの年齢に達して母校への思いも一層高じ、同窓会の組織力もより強いものとなり、寄付等の協力によって、本庄高等学院の教育環境は絶えず充実したものとなっている。

２．５年程度の将来像

早稲田大学本庄高等学院は、早稲田大学教旨および本庄高等学院教育方針を踏まえ、地域社会から国際社会までの各分野で活躍できる、視野の広い感性豊かな人材の育成を目指す。そのために、教育方針を再確認したうえで、具体的にそれを実現するための方策を検討し、実現を図る。

本庄高等学院教育方針

■断片的な知識の集積でない、総合的な理解力、個性的な判断力を涵養する。

■地域とのさまざまなレベルでの交流を通じて、人間・社会・自然に対するみずみずしい感性を育成する。

■知識と実行力（気力と体力）との結合を期する。

■「自ら学び、自ら問う」ことを学習姿勢の基本とする。

１）早稲田大学・社会の中核的存在となる人材の育成

変化が激しく、不確実で不透明な時代のリーダーにあっては、判断力と決断力と実行力が求められる。１つの分野の確かな知識と豊かな経験に加え、横断的な知識・経験を持っていること、さらにそれらの知識・経験を判断・行動に結びつけ、ものごとを横断的・俯瞰的にとらえることができるリーダーの育成を目指す。

（１）これからの時代に求められるリーダーの資質を共有する。

（２）各界で活躍できるリーダーとして成長できるよう基礎・基本を徹底的に鍛える。

（３）志を高く抱ける豊かな教養を身につけさせる。

２）地域の特性、特に大久保山（本庄キャンパス）の環境を活用した教育の推進

複雑に絡んだ問題を解決するために、多くの分野の協力が必要になってきている。また、断片的な知識の集積ではなく、総合的な理解力と判断力も求められている。思考力と総合的な理解力と判断力を涵養することを、地域の特性を最大限活かす教育を展開する中で模索する。

本庄高等学院は、都会から離れた、中規模な学校ではあるが、広大なキャンパスと恵まれた自然環境の中にある。本庄高等学院の設立準備段階では,「森に想い土に親しむ」教育が構想されていたし、既に多くの教科が、それぞれ独自にこの自然環境を活用した教育を実践している。これまでの実践例をさらに発展させた形で、「大久保山学」をテーマに、教科を超え、横断的かつ有機的に、しかも学校として組織的かつ継続的に取り組むことを構想する。

（１）本庄高等学院が時代をリードする教育のモデルケースになる。

（２）本庄キャンパスを自然保護や省エネのケーススタディーの場にする。

（３）地域の文化的拠点・交流の基点的存在になる。

（４）本庄地域のまちづくりについて提案・発信し、地域に貢献する。

（５）教職員・生徒の研究成果をデータベース化して、地域内の教育・研究の資料として提供する。

（６）本庄キャンパス施設の有効活用について検討する。

（７）自然と環境と健康を考えるプロジェクトを立ち上げる。

動き出しつつある本庄高等学院稲作プロジェクトをその一つとして進める。

３）附属校としての高大一貫教育の充実

「対話型、問題発見・解決型教育への移行」を意識したカリキュラムと教育方法を検討する。

（１）高大７年間のカリキュラムの中で、大学への滑らかな接続をはかる教育を検討する。特に、基礎・基本を定義し確認する。
優秀な生徒への対応の１つとして、先取り履修、学部教養科目の学院での履修などを検討する。開放科目の受講率を高める方策を検討する。

（２）高大一貫教育の実をあげるために、学術院との密な情報交換の仕組みを検討する。

（３）学部説明会のあり方を含め、学部進学指導のあり方を再検討する。

（４）希望学部への進学（進学枠の拡大）を目指す。

（５）学部・大学院との教育・研究上の連携を一層すすめる。

（６）学部進学決定方法について検討する。
ある分野に卓越した能力を持つ生徒の扱いについて検討する。

（７）３年次におけるスムーズな進学指導を徹底し、学期制のあり方も含めて検討する。

（８）留学時の単位の振替を検討する。

（９）大学の９月入学への対応を検討する。

(10) 大学一般教養科目の一部を本庄高等学院で展開することを検討する。

４）教育の質の一層の向上

本庄高等学院生が、早稲田大学に進学してその豊かな才能をさらに伸ばし、やがてはグローバルリーダーとして国際社会の各界で活躍できる人物になるために、本庄高等学院では基礎・基本をしっかり鍛えたうえで、豊かな教養を身につけさせる。

従来行われてきた、知識を与え、それを確認するという教育から、知識だけではなく、自分の頭で考えることができる生徒を育てる。そのためには、生徒のモチベーションを高めるシステムを作る。また、生徒の問題解決を効果的に促すファシリテータとしての教員の教育力を高める。

（１）国内外交流を一層充実させる。

（２）留学しやすい環境を整える方向で検討する。

（３）生徒自らの手による学術交流を一層充実させ、その成果と水準を広くアピールする。

（４）学校行事等を通じて、生徒の主体的な活動を一層促進させる。

（５）進路の検討と学部選択に資するよう、選択科目のあり方について検討する。

（６）卒業論文に関して、指導、評価、提出時期、卒論報告会等検討する。

（７）生徒の知的関心と主体的な学びを引き出すための成績評価について、さらに検討を重ねる。
興味・関心をどう評価に取り入れるか検討する。
平均点、不受験者の試験点等も合わせて検討する。

（８）生徒の個々のレベルからの力の伸びを実感できるような英語教育プログラムを検討する。

（９）国際交流や科学イベント・研究など、大学レベルの教育研究活動を広くアピールする。

(10) 生徒のコミュニケーション能力、コラボレーション能力、プレゼンテーション能力、リーダーシップの向上のための方策を検討する。

(11) 教員の教育力がさらに向上するよう、研究と研修の一層の充実を図る。

５）優秀な生徒確保のための入試改革

優秀な生徒を確保する前提として、魅力ある学校作りを引き続き行うとともに、社会の各分野で活躍できる人材を育成するためには、これまでと同様に、多様で優秀な生徒を国内外から能動的に確保する仕組みを探求しなければならない。そのための選抜方法を検討する。

（１）入試科目、面接試験など選抜方法について検討する。
（２）入試形態（推薦入試）について検討する。
（３）進学基準の検討と合わせて、編入の可能性について検討する。
（４）国内外から優秀な生徒を受け入れるためにも、生徒寮を教育の場としても積極的に活かすことをはかる。
（５）魅力ある学校作りのために、学校行事の目的・内容・実施時期等について検討する。

６）同窓会・地域との連携強化

卒業生はさまざまな分野で活躍している。この人的資源を有効に活用する仕組みを一層推進する。また、地域との交流なくして、学校の存立はない。地域とのさまざまなレベルでの交流を一層促進する。

（１）ホームカミングデーの定期開催をする。
（２）学院生が人と人とのつながりを実感して、未来と社会を見据えることができるよう、卒業生の動静を把握し学院生との出会いの場を随時設ける。
（３）卒業生に各種セミナー・課外講義等への講師として引き続き依頼する。
（４）現施設を利用した大学所蔵の文化財の公開展示をする。
（５）教育リソースの地域への還元を検討する。

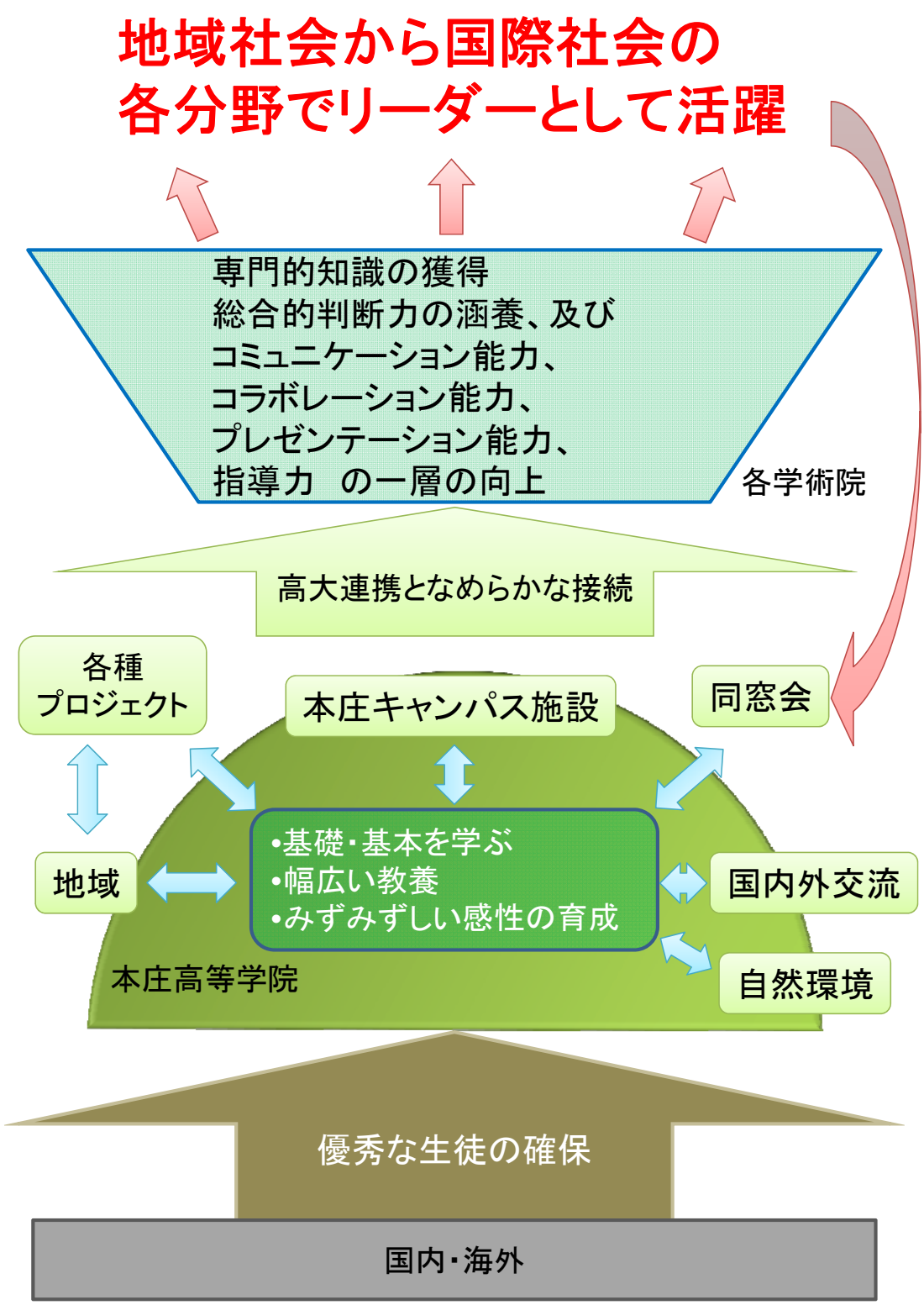
７）効果的な予算配分と赤字状況の改善

効果的な予算配分と赤字状況の改善に向けて検討する。

８）教員人事のあり方

今後１０年程で定年を迎える教員が多い。その教員の後任人事の進め方について、優秀な教員を採用するという視点を含め、本庄高等学院教育の展開を考慮しながら、開かれた議論の中で、広く検討する。

３．将来イメージ


地域社会から国際社会の
各分野でリーダーとして活躍
専門的知識の獲得
総合的判断力の涵養、及び
コミュニケーション能力、
コラボレーション能力、
プレゼンテーション能力、
指導力　の一層の向上
各学術院
高大連携となめらかな接続
各種
プロジェクト
本庄キャンパス施設
同窓会
地域
•基礎・基本を学ぶ
•幅広い教養
•みずみずしい感性の育成
国内外交流
自然環境
本庄高等学院
優秀な生徒の確保
国内・海外

４．具体的構想	
2012 年度	本庄高等学院将来構想を策定し、検討事項に対する教職員の共通理解を深める。 具体的に検討する委員会等を決定する。 随時検討を開始する。 「本庄高等学院稲作プロジェクト」を立ち上げる。 高大一貫教育について学部との検討を開始する。 30 周年記念事業を同窓会との連携で行う。
2013 年度	各教科・各科目の基礎・基本の確認作業を教科主任会等で開始する。 委員会等で将来構想の具体的計画を検討する。 「本庄高等学院稲作プロジェクト」の一部を開始する。 抜本的入試改革に向けて検討を開始する。 教員人事の検討を開始する。 高大一貫教育について学部との検討を引き続き行う。 同窓会との継続的連携を引き続き検討する。 「学院案内」に将来構想の一部を掲載する。
2014 年度	本庄高等学院将来構想の具体的計画をまとめる。 大久保山（本庄キャンパス）の環境を活用した教育について、特に、教科を超え、組織的に取り組む構想について、詳細を検討する。 新しい入試制度の広報を行う。
2015 年度	大久保山（本庄キャンパス）の環境を活用した教育に、組織的な取り組みを開始する。 新しい入試制度を開始する。
2016 年度	教職員・生徒の研究成果の提供を開始する。 「学院案内」に本庄高等学院将来構想を掲載する。
2017 年度	本庄高等学院将来構想をほぼ実行に移す。 地域の特色を活かした「森に想い土に親しむ」教育を一層発展させた「大久保山学」をテーマに、教科横断型の教育・研究活動を軌道に乗せる。

５．課題

地域の特色を活かした教科横断型の教育・研究活動を基本に据える本庄高等学院の将来構想は、地域や同窓生との連携および本庄キャンパスの施設の活用が前提となっている。したがって、将来構想を実行するに当たっては、次のような課題をクリアすることが必要になる。

（１）本庄高等学院教職員の共通理解を得ることと、情報を共有すること。

（２）本庄キャンパスの施設を有効活用するための、大学関係箇所からの理解と協力を得ること。

（３）高大一貫教育に対する各学部の理解と協力を得ること。

（４）本庄高等学院教育に対する地域の理解と協力を得ること。そのための効果的な情報を地域に向けて発信すること。

（５）同窓生の動静を把握することと、同窓生から継続的な協力を得ること。また、そのための双方向の情報交換をすること。

（６）教育に専念できる教育環境を整えること。